

バーコードリーダー MS7580

設定マニュアル 第1版



株式会社エイポック
〒230-0051
神奈川県横浜市鶴見区鶴見中央4-36-1
ナイス第2ビル
Tel: 045-508-5201
<http://www.a-poc.co.jp/>
MS7580AC Manual Rev 1.7 / Feb 2011

本書について

- ・ 本書は英文取扱説明書から、主に使用する機能変更の設定用バーコードメニューを抜粋し、日本語に翻訳したものです。

あらかじめご承知いただきたい事項

- ・ 日本語の製本版は配布しておりません。お手数ですが、本書を印刷するなどしてご利用ください。

改訂履歴

第1版 Rev 1.0	日本語訳 設定マニュアル 作成	2008/3
第1版 Rev 1.1	USB で接続する：ACアダプタ使用について追記	2008/4
第1版 Rev 1.2	付録1 USB Serial Emulation について追記	2008/7
第1版 Rev 1.3	読み取り方法に追記	2008/7
第1版 Rev 1.4	付録1 USB Serial Emulation について追記	2008/9
第1版 Rev 1.5	スキャナの動作(6)-ホスト・スキャナのコマンド(1)に「シングルトリガーモード」を追記	2009/8
第1版 Rev 1.6	スキャナの動作(1)-読取バッファに5読取バッファ~8読取バッファを追記	2009/11
第1版 Rev 1.7	外観図差し替え。本体 Rev C より外観変更のため。付録(1) USB シリアル・エミュレーション・モードの設定を改訂	2011/2

製品の特徴

MS7580は様々な種類の二次元バーコード、一次元バーコードを読み取る定置式のバーコードリーダーです。多くの高機能で便利な特徴があります。

主な特徴

- ・ バーコードを360度全方向読み取り
- ・ 二次元バーコード対応(QRコード,DataMatrixなど)
- ・ 一次元バーコード対応 分解能0.1mm …低品質なバーコードも読み取る性能
- ・ GS1-Databar (旧称RSS)、合成シンボル対応 …新しいバーコードに対応
- ・ 郵便カスタマバーコード対応
- ・ 高解像CMOSイメージセンサ搭載 …高解像度、1280x768ピクセル
- ・ IRセンサー搭載。自動で光源オン・オフ。…未使用時は自動で消灯
- ・ FirstFlashテクノロジー搭載。 …シールドされたLEDでまぶしくない。
- ・ Codegateテクノロジー搭載。 …密集したバーコードから1つだけ読み取りできる。
- ・ 小型で洗練されたデザイン 高い耐久性 …本体全体を包むラバー・ハウジング。
- ・ 高輝度な確認ランプの青LED …鮮明で目視確認が容易。デザイン性もアップ。
- ・ 長いインターフェイス・ケーブル(長さ2.9M) …設置に取り回しが良い
- ・ USBインターフェイス対応 …1台でUSBキーボード、USBシリアル両対応

各部の名称

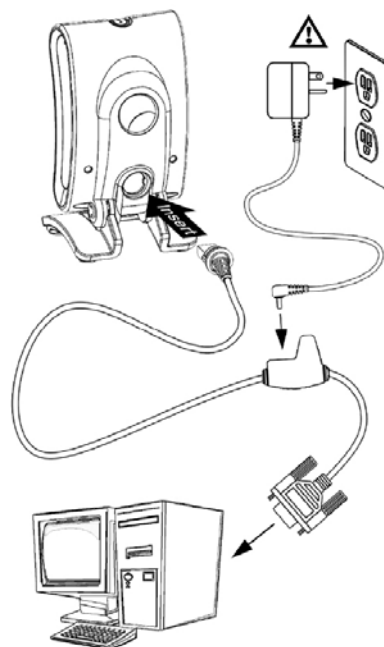


設置方法

RS-232Cで接続する

スキャナをコンピュータやホスト装置に接続する

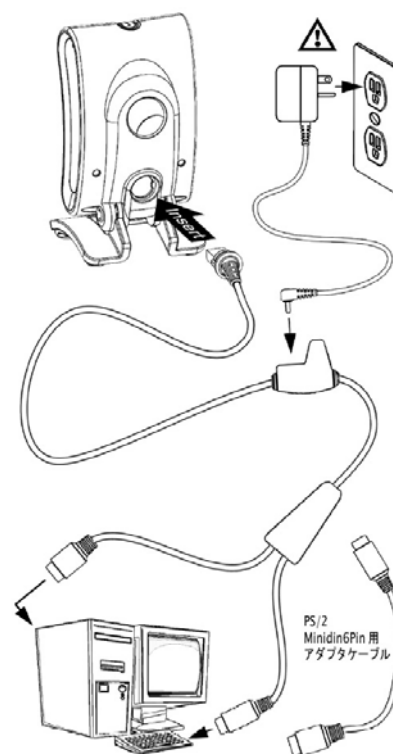
- (1) コンピュータの電源をオフにします。
- (2) RS-232Cインターフェイス・ケーブルのRJ-45コネクタをスキャナに接続します。カチッと音が鳴るまで差し込みます。
- (3) コンピュータにRS-232Cインターフェイス・ケーブルを接続します。
- (3) ACアダプタをRS-232Cインターフェイス・ケーブルに接続し、電源コンセントに接続します。
- (6) スキャナはイニシャライズを開始しブザー音が鳴ります。青と白のLEDが交互に点灯し約3秒後にLEDは一定した青のLED点灯になります。
- (7) コンピュータの電源をオンにします。
- (8) ホストのCOMに適切なパラメータを設定します。設定バーコードを読み取って設定してください。
- (7) 付録のサンプルシンボルなどにあるバーコードを読み取り、スキャナの動作を確認してください。



PS/2キーボード・インターフェイスで接続する

スキャナをコンピュータに接続する

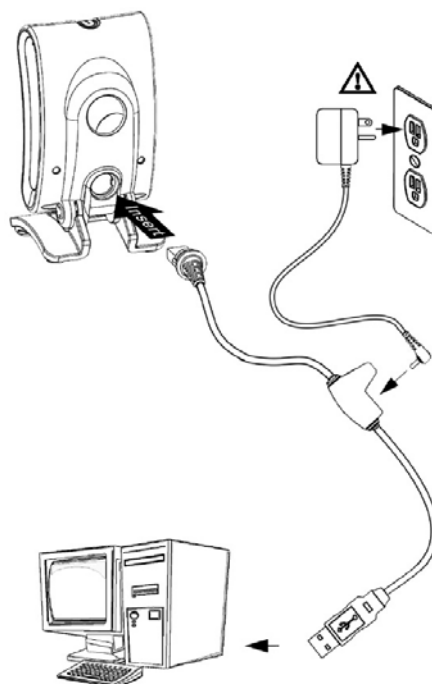
- (1) コンピュータの電源をオフにします。
- (2) PS/2インターフェイス・ケーブルのRJ-45コネクタををスキャナに接続します。
カチッと音が鳴るまで差し込みます。
- (3) コンピュータからキーボードを取り外します。
- (4) コンピュータとキーボードにPS/2インターフェイス・ケーブルを接続します。
オスコネクタ、メスコネクタの組み合わせに注意してください。
付属のPS/2 MiniDin6Pin用アダプタを使用します。
- (5) ACアダプタをPS/2インターフェイス・ケーブルに接続し、電源コンセントに接続します。
- (6) スキャナはイニシャライズを開始しブザー音が鳴ります。
青と白のLEDが交互に点灯し
約3秒後にLEDは一定した青のLED点灯になります。
- (7) コンピュータの電源をオンにします。
- (8) 付録のサンプルシンボルなどにあるバーコードを読み取り、スキャナの動作を確認してください。



USBで接続する

スキャナをコンピュータに接続する

- (1) 付属のUSBインターフェイス・ケーブルのRJ-45コネクタをスキャナに接続します。カチッと音が鳴るまで差し込みます。
- (2) USBインターフェイス・ケーブルをコンピュータに接続します。
- (3) ドライバが自動的にインストールされます。スキャナはイニシャライズを開始しブザー音が鳴ります。青と白のLEDが交互に点灯し約3秒後にLEDは一定した青のLED点灯になります。
- (4) 付録のサンプルシンボルなどにあるバーコードを読み取り、スキャナの動作を確認してください。



USB接続時のACアダプタ使用について

USB接続時は、ACアダプタを使用しなくてもスキャナは動作します。

ACアダプタを使用すると、読み取り率を向上させるPass-Through Setting(パス-スルー設定)が有効になり、バーコードの読み取り率が向上します。

ACアダプタを接続するとスキャナはイニシャライズを開始し再起動します。

USB インターフェイス デバイス クラスを設定する

MS7580は次の2種類のUSBデバイスクラスを設定できます。

- (1) USBキーボード・エミュレーション・モード (USBキーボード・インターフェイス)
初期値です。 キーボード入力可能な画面にバーコード・データが入力されます。キーボードレイアウトの初期値はUSAです。日本語コンピュータに接続している場合は、キーボードの項目から「日本キーボード」設定バーコードを読み取って設定してください。
- (2) USBシリアル・エミュレーション・モード
シリアル接続をエミュレーションし、コンピュータのCOMポートへバーコード・データを出力します。二次元バーコードに日本語が含まれている場合は、USBシリアル・エミュレーション・モードに設定する必要があります(注)。詳細は巻末の付録をご参照ください。
注：本製品のみでは日本語を表示しません。
日本語を表示するにはシリアル伝送されたバイナリデータをキーボード変換するソフトウェアなどが別途必要です。

読み取り方法

MS7580は次の2つの読み取り方法があります。

1. プレゼンテーション モード (自動読み取り)

- (1) ウィンドウの前にバーコードラベルをかざします。
バーコード・シンボルは360°どの向きでも読み取ります。
- (2) 自動的にバーコードを読み取ります。

このモードはハンドフリー・スキャンとも言います。
通常はこのモードで読み取りを待機しています。

2. トリガーモード (手持ち読み取り)

- (1) バーコードリーダーを手にもちます。
- (2) ウィンドウをバーコードに向け、照準光をバーコードに投光します。
トリガーモードでは、一次元バーコードはリーダーの照準光にあわせて、水平方向で読み取ります。二次元バーコードはどの方向でも読み取ります。
- (3) トリガーボタンを押します。

照準光と照明光

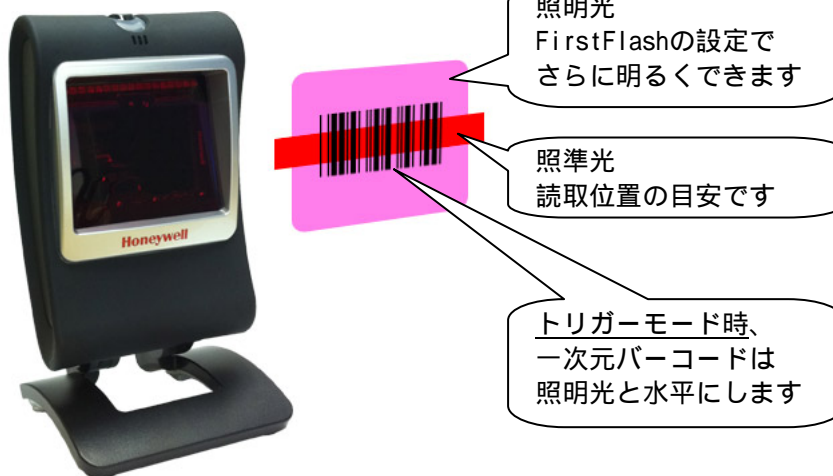
- ・照準光はウィンドウから対象の中央部に投光する、**水平の赤い光**です。
- ・照明光は対象全体を照らす赤い光です。

照準光と照明光は設定バーコードで変更できます。

CodeGate (コード・ゲート)

トリガーモードでは、CodeGate (コード・ゲート) という機能が働きます。
CodeGateではトリガーボタンを押下した時にのみ、バーコードを読み取ります。
密集しているバーコードを読む時に目的の1つのバーコードのみを読み取ることができます。

図：照準光と照明光
(図はイメージです)



設定バーコードの読み取りについて

設定バーコードを読むときは、トリガーモードで読み取ります。
スキャナ本体を手に持ち、トリガーボタンを押して設定バーコードを読み取ってください。

IRセンサー

MS7580はIRセンサー（赤外線センサー）を搭載しています。

自動でオン・オフ

読み取りウィンドウの前にバーコードラベルをかざすと、IRセンサーが検知して自動的に照準光と照明光が点灯し、バーコードを読み取ります。

バーコードを読み取ると照準光と照明光は自動的に消灯します。

バーコードが無い場合や、しばらくたって読み取らなかった場合は自動的に消灯します。

はじめに

ご購入時のバーコードリーダーは、工場出荷時の初期値に設定されています。バーコードリーダーの設定はお客様のもとで簡単に変更していただけます。

本紙に記載された設定バーコードを読み取ることで、設定は変更されます。設定された内容は、バーコードリーダー本体の不揮発性メモリに保存されます。電源を切った後も、設定は保存されています。

記号	意味
* (アスタリスク)	初期値(工場出荷時の設定)
~ (チルダ)	「マルチ・コード方式」による設定が必要です。 設定の方法については次項を参照してください。

設定の方法

バーコードリーダーの設定の方法は「シングル・コード方式」と「マルチ・コード方式」の2通りの方法があります。

シングル・コード方式

目的の設定バーコードのみを1回読み取る方法です。

「設定開始/設定終了」の設定バーコードを読み取る必要がありません。

「許可」または「禁止」など、どちらかひとつを選択する設定の場合に使う設定の方法です。

手順	操作	例
1	バーコードリーダーの電源を入れます。	
2	バーコードリーダーで設定メニューを読み取ります。	「Code39 読取 禁止」を読み取る。
3	ブザーが鳴って、設定が変更されます。以上で終了です。	バーコードリーダーはCode39を読み取らないように設定されます。

マルチ・コード方式

複数の設定バーコードを読み取る方法です。

「設定開始/設定終了」の設定バーコードを読み取る必要があります。

(設定開始と設定終了は同じバーコードです)

「読み取り桁数を10桁に設定する」、「プリフィックスにアルファベットのAを設定する」といった値(パラメータ)を指定する場合に使う方法です。

関連ページ「コード・バイト(数値バーコード)の使用方法」も参照してください。

手順	操作	例
1	バーコードリーダーの電源を入れます。	
2	バーコードリーダーで「設定開始/設定終了」を読み取ります。ブザーが3回鳴ります。	
3	バーコードリーダーで設定メニューを読み取ります。	「最小読取桁数」を1桁に設定する。 「最小読取桁数」を読み取る。 次に「コード・バイト」から [0]-[0]-[1]の順番で読み取る。
4	バーコードリーダーで「設定開始/設定終了」を読み取ります。ブザーが3回鳴ります。以上で終了です。	

設定開始/設定終了



初期化



データを出力する順番

プリフィックス、サフィックス、コードID、バーコード・データの出力順を下記の「データ出力順の表」に示します。

表-データの出力順
(左側が先頭)

設定項目	出力データ											
	標準のプリフィックス		ユーザー指定のプリフィックス	標準のコードID	ユーザー指定のコードID*1	バーコードデータ	ユーザー指定のコードID*1	ユーザー指定のサフィックス	標準のサフィックス			
キャラクタ (ASCII)	STX	HT	任意設定	固定選択	任意設定		任意設定	任意設定	HT	CR	LF	ETX
デフォルト	禁止	禁止	未設定	未設定	未設定	-	未設定	未設定	禁止	許可	許可	禁止
桁数	1	1	1-10	1(2)*2	1	-	1	1-10	1	1	1	1
以下は例												
設定方法 *3 コード・バイト			066		071		071	009				
RS-232の出力												
ASCII	STX	HT	A	F	G		HT	HT	HT	CR	LF	無し
16進数/HEX	02	09	41	46	47		09	09	09	0D	09	03
PS/2キーボード USBキーボード での出力	無し *4	TAB	A	F	G	-	G	TAB	TAB	ENTER	無し (ENTER) *6	無し *5

*1 ユーザー設定のコードID

出力する位置はバーコード・データの前か後のどちらか一方です。
初期設定は「バーコード・データの前」です。

*2 標準のコードID

標準のコードIDについては、1桁の場合と2桁の場合があります。
キャラクタについては該当ページを参照してください。

*3 設定方法

印はシングル・コード方式で設定します。(メニューを1つ読み取るのみ)
3桁の数値はマルチ・コード方式で設定するときの、
キャラクタを指定するコード・バイトの数値です。(例:066=A)

*4 コントロールキーを受け取る環境ではCTRL+Bが出力されます。

*5 コントロールキーを受け取る環境ではCTRL+Cが出力されます。

*6 LF(Line Feed)はアプリケーションによって無効になる場合とENTERとして受け取る場合の
2通りの結果があります。
改行が2回入力される場合はLFを禁止に設定してください。

バーコードの種類と読取設定 (1)



“*” (アスタリスク・マーク)は初期値の表示です。
“~” (チルダ・マーク)はマルチ・コード方式による設定が必要です。

UPC/EAN/JAN



* UPC/EAN/JAN 読取 許可



UPC/EAN/JAN 読取 禁止



* UPC-A 読取 許可



UPC-A 読取 禁止



* UPC-E 読取 許可



UPC-E 読取 禁止



* EAN-13 / JAN-13 読取 許可



EAN-13 / JAN-13 読取 禁止



* EAN-8 / JAN-8 読取 許可



EAN-8 / JAN-8 読取 禁止

バーコードの種類と読取設定 (2)

Code128



* Code128 読取 許可



Code128 読取 禁止



GS1-128 (旧称UCC/EAN-128) ']C1 ' コード・フォーマット許可



* GS1-128 (旧称UCC/EAN-128) ']C1 ' コード・フォーマット禁止



Code128の<FNC4>を無視



* 拡張ASCIIキャラクタを決定するために<FNC4>を使用する

Code39 (1)



* Code39 読取 許可



Code39 読取 禁止



MOD 43 チェックの Code39 読取許可 - モジュラス 43のチェック・ディジットがついているCode39のみ読取ます。



* MOD 43チェックのCode39 読取禁止



Full ASCII Code39 許可



* Full ASCII Code39 禁止

バーコードの種類と読取設定 (3)

Code39 (2)



PARAF (イタリアの薬局コード) サポート許可 - スキャナは Code 39 をPARAF フォーマットに変換します。



* PARAF サポート禁止



* PARAFコードのみ有効



PARAFの他のコードも有効



TRI-OPTICコード許可



* TRI-OPTICコード禁止



* 標準Code39フレーム使用



5つの複数バーなしでCode39を試みる



ITF/Code39フィルタ許可



* ITF/Code39フィルタ禁止



セルフ・サービス・ライブラリCode39許可



* セルフ・サービス・ライブラリCode39禁止



MOD 43チェック・ディジット出力 - セルフ・サービス・ライブラリCode 39



* MOD 43チェック・ディジット出力なし - セルフ・サービス・ライブラリCode 39

バーコードの種類と読取設定 (4)

2 of 5 (1)



* Interleaved 2 of 5 (ITF) 読取 許可



Interleaved 2 of 5 (ITF) 読取 禁止



ITF のMOD 10 チェック許可 - モジュラス10ウェイト3 のチェック・ディジットの入ったインターリブド 2 of 5 (ITF) バーコードのみ読取ます。



* ITF のMOD 10 チェック禁止



ITF Nullキャラクタを有効



* ITF Nullキャラクタを無効



~ ITF読取桁数固定1 - 最初のITF読取可能桁数の固定を指定するには、このバーコードの次にコード・バイト (設定用の数値バーコード) を読取ます。



~ ITF読取桁数固定2 - 第2のITF読取可能桁数の固定を指定するには、このバーコードの次にコード・バイト (設定用の数値バーコード) を読取ます。



~ ITF読取最小桁数 - 最小桁数を指定するには、このバーコードの次にコード・バイト (設定用の数値バーコード) を読取ます。



代替ITF第1バー・リファレンス



* 標準ITF第1バー・リファレンス

バーコードの種類と読取設定 (5)

2 of 5 (2)



Standard 2 of 5 読取 許可
(別名:Code2of5,Industrial2of5,Discrete2of5)



* Standard 2 of 5 読取 禁止



~ Standard 2 of 5 読取最小桁数 - 最小桁数を指定するには、このバーコードの次にコード・バイト(設定用の数値バーコード)を読取ます。



Matrix 2 of 5 読取 許可



* Matrix 2 of 5 読取 禁止



Matrix 2 of 5 チェック・ディジット要求 許可



* Matrix 2 of 5 チェック・ディジット要求 禁止



15桁 AirLine 2 of 5 読取 許可



* 15桁 AirLine 2 of 5 読取 禁止



13桁 AirLine 2 of 5 読取 許可



* 13桁 AirLine 2 of 5 読取 禁止



Honkong 2 of 5 読取 許可



* Honkong 2 of 5 読取 禁止

バーコードの種類と読取設定 (6)

Codabar (NW-7)



* Codabar 読取 許可



Codabar 読取 禁止



デュアル・フィールドCodabar 読取 許可



* デュアル・フィールドCodabar 読取 禁止

Code93



* Code93 読取 許可



Code93 読取 禁止

Code11



Code11 読取 許可



* Code11 読取 禁止



* 1桁Code11チェック・ディジットのチェック



2桁Code11チェック・ディジットのチェック



* 2桁Code11チェック・ディジットをチェックしない



コード読取桁数が10キャラクタより大きい場合に2桁Code11
チェック・ディジットをチェックする

バーコードの種類と読取設定 (7)

Telepen



Telepen 読取 許可



* Telepen 読取 禁止



ALPHA Telepen 読取 許可



* ALPHA Telepen 読取 禁止

Plessey



MSI Plessey 読取 許可



* MSI Plessey 読取 禁止



* MSI Plesseyチェック・ディジットなし - Plesseyバーコードのチェック・ディジットをテストしません。



MSI Plessey MOD 10/10チェック・ディジット 許可 -MSI Plessey の2桁モジュラス10 チェック・ディジットを確認します。



* MSI Plessey MOD 10/10チェック・ディジット 禁止 - これはMSI Plessey の1桁モジュラス10 チェック・ディジットを確認します。



UK Plessey 読取 許可



* UK Plessey 読取 禁止



UK Plessey A から X に変換 許可



* UK Plessey A から X に変換 禁止

バーコードの種類と読取設定 (8)

Plessey



* 標準Plesseyストップ・キャラクタ



不良Plesseyストップ・キャラクタ受入

追加デコード設定項目



ダブル・ボーダー要求/インターキャラクタ・スペース 許可



* ダブル・ボーダー要求/インターキャラクタ・スペース 禁止



細ボーダー要求許可



* 細ボーダー要求禁止



~ 最小読取桁数 - 一次元バーコードの初期値は3です。
UPC/EAN 以外のバーコードの最小読取桁数を指定するには、
このバーコードの次にコード・バイト（設定用の数値バー
コード）を読み取ります。



~ 読取桁数の固定 - 読取桁数を固定するには、このバーコード
の次にコード・バイト（設定用の数値バーコード）を読み取
ります。



バー/スペース・カウントに対するモジュラス8フィルタ許可



* バー/スペース・カウントに対するモジュラス8フィルタ禁止



Code39不良ボーダー処理



* Code39不良ボーダー禁止

バーコードの種類と読取設定 (9)

読取桁数の固定 (1)

バーコードの読取桁数を設定します。設定可能な組み合わせは7つまでです。
バーコードの種類ごとに読取桁数を指定できます。
設定方法：下記の例を参照し、設定してください。

例：8桁のCode39のみ読み取る

順番	読み取るメニュー
1	設定開始/設定終了
2	読取コード固定 #1： 桁数
3	コード・バイト「0」「0」「8」の順番で読取ます。
4	読取コード固定 #1： コード・タイプ
5	コード・バイト「0」「8」「0」の順番で読取ます。 バーコードの種類を示すコード・バイト値はM-5の表を参照してください。
6	他にも設定する場合は同様に#2～#7について設定します。
7	設定開始/設定終了



~ 読取コード固定 #1: 桁数



~ 読取コード固定 #1: コード・タイプ



~ 読取コード固定 #2: 桁数



~ 読取コード固定 #2: コード・タイプ



~ 読取コード固定 #3: 桁数



~ 読取コード固定 #3: コード・タイプ



~ 読取コード固定 #4: 桁数



~ 読取コード固定 #4: コード・タイプ



~ 読取コード固定 #5: 桁数



~ 読取コード固定 #5: コード・タイプ

バーコードの種類と読取設定 (10)

読取桁数の固定 (2)



~ 読取コード固定 #6: 桁数



~ 読取コード固定 #6: コード・タイプ



~ 読取コード固定 #7: 桁数



~ 読取コード固定 #7: コード・タイプ



日本語マルチ・フィールド許可



日本語マルチ・フィールド禁止

補足設定 (1)



2桁アド・オン 読取 許可



* 2桁アド・オン 読取 禁止



* 2桁・2回一致 読取 許可 - バーコードおよび2桁アド・オンを
読取り、データが2回一致した後にデータを受け入れます。



2桁・2回一致 読取 禁止



5桁アド・オン 読取 許可



* 5桁アド・オン 読取 禁止



5桁・2回一致 許可 - バーコードおよび5桁アド・オンを
読取り、データが2回一致した後にデータを受け入れます。



* 5桁・2回一致 禁止



アド・オン要求 - UPC/EAN/JANの読み取りにアド・オンを要
求します。



* アド・オン不要



リモート・アド・オン要求 許可 -



* リモート・アド・オン要求 禁止



Bookland (978) アド・オン要求 許可



* Bookland (978) アド・オン要求 禁止

補足設定 (2)



977 (2桁) アド・オン要求 許可 - 977 で始まるEAN-13 コードはすべて2桁アド・オンを要求します



* 977 (2桁) アド・オン要求 禁止



378/379 French アド・オン要求 許可



* 378/379 French アド・オン要求 禁止



414/419 German Bookland アド・オン要求 許可



* 414/419 German Bookland アド・オン要求 禁止



434/439 German アド・オン要求 許可



* 434/439 German アド・オン要求 禁止



#System 2 はアド・オンを要求 許可



* #System 2 はアド・オンを要求 禁止



UPC #System 5 はアド・オンを要求 許可



* UPC #System 5 はアド・オンを要求 禁止



* 37x、43x、またはUPC # System 5による2桁アド・オン 許可



37x、43x、またはUPC # System 5による2桁アド・オン 禁止

補足設定 (3)



* 37x、43x、またはUPC # System 5による5桁アド・オン 許可



37x、43x、またはUPC # System 5による5桁アド・オン 禁止



クーポンCode128 許可



* クーポンCode128 禁止



Code128 ' J1 ' 拡張コード・フォーマット 許可 -]C1キャラクタをクーポンコードのCode128 の先頭に出力 許可。



* Code128 ' J1 ' 拡張コード・フォーマット 禁止



Code128 グループ・セパレータ 許可 - "GS" (1DH) キャラクタがクーポンコードのCode128に出力される。



* Code128 グループ・セパレータ 禁止



アド・オン確認に400msec の時間がかかる - このオプションでUPC/EAN を読取った後、アド・オンのチェックに400 msec の時間がかかります。



アド・オン確認に200msec の時間がかかる - このオプションでUPC/EAN を読取った後、アド・オンのチェックに200 msec の時間がかかります。



* アド・オン確認に100msec の時間がかかる - このオプションでUPC/EAN を読取った後、アド・オンのチェックに100 msec の時間がかかります。

補足設定 (4)



アド・オンのコード ID許可



* アド・オンのコード ID禁止



* アド・オンのピープ音1回



アド・オンのピープ音2回



ISBN チェック・ディジット出力 許可 - このオプションはすべてのモデルには適用しません。



ISBN チェック・ディジット出力 禁止



Bookland から ISBN に変換 許可 - このオプションはすべてのモデルには適用しません。



* Bookland から ISBN に変換 禁止



ISBN 再フォーマット 許可



* ISBN 再フォーマット 禁止



EAN-13コードを読取ってすぐの場合にアド・オン・チェックなし



* 標準アド・オン・チェック

GS1 Databar

GS1 Databarは以前、RSS-14と呼ばれていたバーコードです。



ダブル・ボーダー要求 - GS1 Databarを読取る場合、シンボル内に広いスペースが含まれることが多いため、ダブル・ボーダー要求を許可することをお勧めします。



GS1 Databar 読取 許可



* **GS1 Databar 読取 禁止**



* **GS1 Databar チェック・ディジット 出力 許可**



GS1 Databar チェック・ディジット 出力 禁止



* **GS1 DatabarアプリケーションID 出力 許可** - 初期値ではアプリケーションID「01」が出力されます。



GS1 DatabarアプリケーションID 出力 禁止



* **GS1 DatabarシンボルIDを出力 許可** - 初期値ではシンボルID「je0」が出力されます。



GS1 DatabarシンボルIDを出力 禁止

GS1 Databar Limited

GS1 Databar Limitedは以前、RSS Limitedと呼ばれていたバーコードです。



GS1 Databar Limited 読取 許可



* GS1 Databar Limited 読取 禁止



* GS1 Databar Limited チェック・ディジット 出力 許可



GS1 Databar Limited チェック・ディジット 出力 禁止



* GS1 Databar LimitedアプリケーションID 出力 許可 - 初期値ではアプリケーションID「01」が出力されます。



GS1 Databar LimitedアプリケーションID 出力 禁止



* GS1 Databar LimitedシンボルID 出力 許可 - 初期値ではシンボルID「je0」が出力されます。



GS1 Databar LimitedシンボルID 出力 禁止

GS1 Databar Expanded

GS1 Databar Expandedは以前、RSS Expandedと呼ばれていたバーコードです。



GS1 Databar Expanded 読取 許可



* GS1 Databar Expanded 読取 禁止



* GS1 Databar ExpandedシンボルID 出力 許可 - 初期値ではシンボルID「je0」が出力されます。



GS1 Databar ExpandedシンボルID 出力 禁止

スキャナの動作 (1)

設定モード・オプション



起動直後に設定モード 許可 - スキャナはバーコードを読取る前にのみMetroSet(設定ソフト)で設定モードに入ることができます。



* **常時設定モード 許可** - 常時、MetroSet(設定ソフト)で設定モードに入ることができます。



起動直後に設定コード 許可 - 起動後に通常のバーコードが読み取られると、スキャナは設定用バーコードを受け付けません。



* **常時設定コード 許可** - 常時、設定バーコードを読取ることができます。

読取バッファ



* **1読取バッファ** - 読み取り範囲内の1つのバーコードを読取ります。同一シンボル・タイムアウトの時間内は読取りフィールドからバーコードをはずさない限り、再び読み取りません。



2読取バッファ - 読み取り範囲内の2つのバーコードを読取ります。



3読取バッファ - 読み取り範囲内の3つのバーコードを読取ります。



4読取バッファ - 読み取り範囲内の4つのバーコードを読取ります。



5読取バッファ - 読み取り範囲内の5つのバーコードを読取ります。



6読取バッファ - 読み取り範囲内の6つのバーコードを読取ります。



7読取バッファ - 読み取り範囲内の7つのバーコードを読取ります。



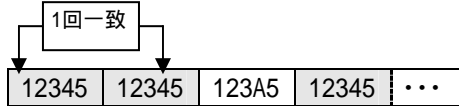
8読取バッファ - 読み取り範囲内の8つのバーコードを読取ります。

スキャナの動作 (2)

一致読取

一致読取の設定は、低品質なバーコードの読み取りに対しデコードの信頼性を向上します。回数を増やすと誤読が低減し信頼性は向上しますが、読み取りに時間がかかります。

図例：バーコードデータ「12345」に対して1回一致を設定した場合。
連続した2つのデータが一致した際に出力 許可。



* 0回一致 - 「正常読取」には1つのデコードデータが必要。



1回一致 - 「正常読取」には連続した2つの同じデコードデータが必要。



2回一致 - 「正常読取」には連続した3つの同じデコードデータが必要。



3回一致 - 「正常読取」には連続した4つの同じデコードデータが必要。



4回一致 - 「正常読取」には連続した5つの同じデコードデータが必要。



5回一致 - 「正常読取」には連続した6つの同じデコードデータが必要。



6回一致 - 「正常読取」には連続した7つの同じデコードデータが必要。



7回一致 - 「正常読取」には連続した8つの同じデコードデータが必要。

その他のデコード設定



* オプションの同一シンボル・チェック - 「新しい」バーコードと見なすためには、次のバーコードには1個の異なるキャラクタが必要です。



標準の同一シンボル・チェック - 「新しい」バーコードと見なすためには、次のバーコードには3個の異なるキャラクタが必要です。同一シンボルを誤ってすぐに読み取ることを低減します。

スキャナの動作 (3)

ブザーのオプション



* 通常の音調



音調 1



音調 2



音調 3



音調 4



音調 5



音調 6



ブザー音なし



* アド・オンにブザー音1回



アド・オンにブザー音2回



高速ブザー音 許可



* 高速ブザー音 禁止



BELコマンド受信時にブザー音 - ホストからBELキャラクタ (07h) を受信するとスキャナはブザー音を鳴らします。BELキャラクタの前に200 msec 以内に数字が送信された場合、スキャナはその数字の数だけブザー音を鳴らします。



* BEL コマンド無視

スキャナの動作 (4)

データ送信ディレイ

データ送信ディレイ（送信の遅延）はホスト入力バッファのオーバーフローを予防します。
キャラクタ間ディレイはバーコードの文字ごとの送信時間の間隔です。
レコード間ディレイはバーコードを連続で読む際の、バーコードごとの送信時間の間隔です。



* 1 msecキャラクタ間ディレイ



10 msecキャラクタ間ディレイ



25 msecキャラクタ間ディレイ



~ ユーザー設定のキャラクタ間ディレイ - このバーコードの次に数字バーコード（コード・バイト）を読み取ってキャラクタ間のディレイ（1~255 msecの範囲）を任意で設定します。



キャラクタ間ディレイ無し



~ ユーザー設定のレコード間ディレイ



レコード間ディレイの間、光源の投光禁止



* レコード間ディレイの間、光源の投光許可

スキャナの動作 (5)

通信タイムアウト・オプション



通信タイムアウト 許可



* 通信タイムアウト 禁止



* データ出力前にブザー音を鳴らす



データ出力後にブザー音を鳴らす



~ ユーザー設定の通信タイムアウト



* 初期値の通信タイムアウト (2 秒)



短時間の通信タイムアウト (1秒)



長時間の通信タイムアウト (4秒)



タイムアウト時にブザー音を3回鳴動



* タイムアウト時にブザー音なし



タイムアウト時にラズベリー音を鳴らす
- ラズベリー音とは「ジジジ…」というノイズ音です。



* タイムアウト時にラズベリー音なし

スキャナの動作 (6)

ホスト・スキャナのコマンド (1)

ホストからのスキャナの制御を実行する設定です。RS-232Cインターフェイスがサポートします。



D/E 無効コマンド 許可 - このオプションを選択し、ホストから ASCII “D” を受信するとスキャナは読取を無効にします。ASCII “E” を受信すると読取が有効になります。



* **D/E 無効コマンド 禁止**



Z/R タイプ D/E シミュレーション 許可 - このオプションを選択し、ホストから ASCII “Z” を受信するとスキャナは読取を無効にします。ASCII “R” を受信すると読取が有効になります。



* **Z/R タイプ D/E シミュレーションなし**



F/L レーザー・コマンド 許可 - このオプションを選択し、ホストから ASCII “F” キャラクタを受信するとレーザー光がオフになります。ASCII “L” キャラクタを受信するとレーザー光はオンになります。



* **F/L レーザー・コマンド禁止**



DTR読取使用禁止 - スキャナは、読取を許可するかどうかを決定するためにDTR入力を監視します。+12V「アクティブ」レベルによりデコードが許可されます。-12V「非アクティブ」レベルによりデコードが禁止されます。



* **DTR読取禁止を使用しない** - DTR入力を監視しません。



DC2キャラクタでアクティベートする - DC2キャラクタ(␣, 124) の受信時に読取を開始します。



* **DC2キャラクタでアクティベートしない**



(2009年8月に追記したメニュー)

シングルトリガーモード - この設定は「DC2キャラクタでアクティベートする」と合わせて設定します。ASCII制御文字DC2(12h)を受信時に照明がオンになり、バーコードを読み取ります。読み取り後、照明がオフになります。

スキャナの動作 (7)

ホスト・スキャナのコマンド (2)



RS232経由での「i」(69H)の受信時にスキャナIDバイトを出力許可 - IDバイトは3バイト(つまり0、0、1)で出力されます。



* RS232経由での「i」(69H)の受信時にスキャナIDバイトを出力禁止



DC2受信時に NO READを送信する



* DC2受信時に NO READを送信しない



NO READ送信時に、緑色のLEDなし



* NO READ送信時に、緑色のLEDなし



シリアル番号出力

プリフィックス/サフィックス (1)



この設定項目の前に「設定開始/設定終了」のバーコードを読み取ります。

ユーザー設定のプリフィックス、すべてのコード共通

プリフィックスはバーコード・データの先頭に付加するキャラクタです。バーコードの種類に関係なく、すべての読み取りデータに付加します。



~ ユーザー設定のプリフィックス #1 - この設定バーコードの次に、付加するキャラクタのコード・バイト値を、数値バーコード(コード・バイト)を読み取って設定します。



~ ユーザー設定のプリフィックス #2 - 2番目のユーザー設定のプリフィックスキャラクタを付加します。



~ ユーザー設定のプリフィックス #3 - 3番目のユーザー設定のプリフィックスキャラクタを付加します。



~ ユーザー設定のプリフィックス #4 - 4番目のユーザー設定のプリフィックスキャラクタを付加します。



~ ユーザー設定のプリフィックス #5 - 5番目のユーザー設定のプリフィックスキャラクタを付加します。



~ ユーザー設定のプリフィックス #6 - 6番目のユーザー設定のプリフィックスキャラクタを付加します。



~ ユーザー設定のプリフィックス #7 - 7番目のユーザー設定のプリフィックスキャラクタを付加します。



~ ユーザー設定のプリフィックス #8 - 8番目のユーザー設定のプリフィックスキャラクタを付加します。



~ ユーザー設定のプリフィックス #9 - 9番目のユーザー設定のプリフィックスキャラクタを付加します。



~ ユーザー設定のプリフィックス #10 - 10番目のユーザー設定のプリフィックスキャラクタを付加します。



* すべてのユーザー設定のプリフィックスを消去する

プリフィックス/サフィックス (2)

ユーザー設定のコードID、コード別 (1)



* ユーザー設定のコードIDをプリフィックスとして使用 - ユーザー設定のコードIDはデータの前に送信されます。これを設定すると、サフィックスにコードIDは使えません。



ユーザー設定のコードIDをサフィックスとして使用 - ユーザー設定のコードIDはデータの後に送信されます。これを設定すると、プリフィックスにコードIDは使えません。

‡ このバーコードを読み取ったら、次にキャラクタを示す3つの数値バーコード(コード・バイト)を読み取ります。



~ UPC-A コードID 設定 ‡



~ UPC-E コードID 設定 ‡



~ EAN-8 コードID 設定 ‡



~ EAN-13 コードID 設定 ‡



~ Code39 コードID 設定 ‡



~ Code128 コードID 設定 ‡



~ Code93 コードID 設定 ‡



~ Code11 コードID 設定 ‡



~ Telepen コードID 設定 ‡

プリフィックス/サフィックス (3)

ユーザー設定のコードID、コード別 (2)



~ TRI-OPTIC コードID 設定 †



~ Standard 2of 5 コードID 設定 †



~ Interleaved 2 of 5 コードID 設定 †



~ Matrix 2 of 5 コードID 設定 †



~ Airline 2 of 5 コードID 設定 †



~ MSI Plessey コードID 設定 †



~ UK Plessey コードID 設定 †



~ Codabar(NW-7) コードID 設定 †



* すべてのユーザー設定のコードIDを消去する - 設定したコードIDをすべて消去します。

プリフィックス/サフィックス (4)

標準のプリフィックス (1)



STXプリフィックス 出力 許可 - これを有効にすれば、スキャナは Start of Text (02h)を各バーコード・データの前に付加して出力します。



* STXプリフィックス 出力 禁止



Rochford-Thomsonモード許可



* Rochford-Thomsonモード禁止



AIM IDキャラクタ 出力 許可



* AIM IDキャラクタ 出力 禁止



UPC プリフィックス ID 出力 許可 - これを有効にすれば、スキャナは UPC/EANの前にプリフィックスを付加してデータを出力します。プリフィックスはA (UPC-A)、E0 (UPC-E)、F (EAN-13)、それにFF (EAN-8)です。



* UPC プリフィックス ID 出力 禁止



NCR プリフィックス ID 出力 許可 - これを有効にすれば、スキャナは下記のコード体系にプリフィックスを付加してデータを出力します。(UPC-A)、E0 (UPC-E)、FF (EAN-8)、F (EAN-13)、B1 (Code 39)、B2 (ITF)そしてB3 (Code 128と他のコード)



* NCR プリフィックス ID 出力 禁止



Nixdorf ID キャラクタ 出力 許可 - これを有効にすれば、Siemen/Nixdorf レジスター用の確認コードをバーコードの前に付加してデータを出力します。



* Nixdorf ID キャラクタ 出力 禁止

プリフィックス/サフィックス (5)

標準のプリフィックス (2)



C プリフィックス 出力 許可



* C プリフィックス 出力 禁止



UPC/EANの「\$」プリフィックス ID 出力 許可



* UPC/EANの「\$」プリフィックス ID 出力 禁止



Tab プリフィックス 出力 許可 - スキャナは TABキー
(ASCII:HT、HEX:09h) をバーコード・データの前に付加して
出力します。



* Tab プリフィックス 出力 禁止

プリフィックス/サフィックス (6)

標準のサフィックス



* CR サフィックス 出力 許可 - スキャナはバーコード・データの後に ENTERキー (ASCII:CR、HEX:0Dh) を付加します。



CR サフィックス 出力 禁止



* LF サフィックス 出力 許可 - スキャナはバーコード・データの後に ASCIIのLF (HEX:0Ah) を付加します。USBおよびPS/2 キーボード・エミュレーションでは、アプリケーションによってはENTERキーとして解釈される場合があります。



LF サフィックス 出力 禁止 - ENTERキーが2回出力される場合はこちらを設定してください。



Tab サフィックス 出力 許可 - スキャナは Tabキー (ASCII:HT、HEX:09h) をバーコード・データの後に付加して出力します。



* Tab サフィックス 出力 禁止



ETX サフィックス 出力 許可 - これを有効にすると、スキャナはバーコード・データの後にEnd of Text (ASCII:ETX、HEX:03h) を付加します。



* ETX サフィックス 出力 禁止



UPC サフィックス ID 出力 許可 - これを有効にすると、スキャナは UPC/EAN コードの後にサフィックスを付加します。その内容は、(UPC-A)、E (UPC-E)、F (EAN-13)それにF (EAN-8)です。



* UPC サフィックス ID 出力 禁止

プリフィックス/サフィックス (7)

データ長の2回一致チェック (水平パリティチェック、LRC)

データ長の2回一致チェック (LRC: Longitudinal Redundancy Check) は、データ・キャラクタ・シーケンス全体にわたって計算されるエラー・チェック・キャラクタです。LRCは、チェックするキャラクタを初期値00HからXOR (排他的論理和) 演算することにより決定します。

その結果、データ・ストリームの後「LRCバイト」が出力されます。受信コンピュータは情報が正しく受信したかどうかを決定するために「LRCバイト」を使用します。スキャナの場合、パリティ・ビットの付加前にXORが実行されます。

LRCを許可すると、スキャナの初期値では出力情報の2番目のバイトからLRCが開始されます。任意選択で、出力される最初のバイトから計算を開始できます。



LRC 計算の送信 許可- このオプションを選ぶと、スキャナはバーコード・データの後 LRCチェック・キャラクタを出力します。



* LRC 計算の送信禁止



* LRC を最初のバイトから始める - スキャナは LRCチェック・ディジットを最初のキャラクタから計算し始めます。



LRC を2番目のバイトから始める - スキャナは LRCチェック・ディジットを2番目のキャラクタから計算し始めます。

キャラクタの置換

設定方法

1. 「設定開始/設定終了」の設定バーコードを読取ります。
2. 「置換するキャラクタ」の設定バーコードを読み取ります (以下を参照)。
3. 置換するキャラクタのコード・バイト値を読み取ります。「コード・バイトの設定値」と「数値バーコード (コード・バイト)」を参照してください。
4. 「置換キャラクタ」の設定バーコードを読み取ります (以下を参照)。
5. 置換キャラクタのコード・バイト値を読み取ります。
6. 「設定開始/設定終了」の設定バーコードを読取ります。



~ 置換するキャラクタ



~ 置換キャラクタ



置換なし - 置換の設定を消去します

プリフィックス/サフィックス (8)



この設定項目の前に「設定開始/設定終了」のバーコードを読み取ります。

ユーザー設定のサフィックス、すべてのコード共通

サフィックスはバーコード・データの先頭に付加するキャラクタです。バーコードの種類に関係なく、すべての読み取りデータに付加します。



~ ユーザー設定のサフィックス #1 - この設定バーコードの次に、付加するキャラクタのコード・バイト値を、数値バーコード(コード・バイト)を読み取って設定します。



~ ユーザー設定のサフィックス #2 - 2番目のユーザー設定のプリフィックスキャラクタを付加します。



~ ユーザー設定のサフィックス #3 - 3番目のユーザー設定のプリフィックスキャラクタを付加します。



~ ユーザー設定のサフィックス #4 - 4番目のユーザー設定のプリフィックスキャラクタを付加します。



~ ユーザー設定のサフィックス #5 - 5番目のユーザー設定のプリフィックスキャラクタを付加します。



~ ユーザー設定のサフィックス #6 - 6番目のユーザー設定のプリフィックスキャラクタを付加します。



~ ユーザー設定のサフィックス #7 - 6番目のユーザー設定のプリフィックスキャラクタを付加します。



~ ユーザー設定のサフィックス #8 - 6番目のユーザー設定のプリフィックスキャラクタを付加します。



~ ユーザー設定のサフィックス #9 - 6番目のユーザー設定のプリフィックスキャラクタを付加します。



~ ユーザー設定のサフィックス #10 - 6番目のユーザー設定のプリフィックスキャラクタを付加します。



* すべてのユーザー設定のサフィックスを消去する

プリフィックス/サフィックス (9)

特別なフォーマット



先頭の0をすべて削除する

* 先頭の0をすべて削除しない

コード・フォーマット (1)

この項目ではバーコード・データの出力形式を設定します。

UPC/EAN/JAN の出力形式(1)



* UPC-A チェック・ディジット 出力 許可



UPC-A チェック・ディジット 出力 禁止



UPC-E チェック・ディジット 出力 許可



* UPC-E チェック・ディジット 出力 禁止



UPC-E を 12桁に拡張 許可 - UPC-E コードを 12 桁と同等の
UPC-A コードに拡張する。



* UPC-E を 12桁に拡張 禁止



* 拡張UPC Eでナンバー・システムを出力 許可



拡張UPC Eでナンバー・システムを出力 禁止



GTINフォーマット許可



* GTINフォーマット禁止



UPC-A を EAN-13に変換 許可 - このオプションが選択された
ら、スキャナは UPC-A を 先頭「0」を付加し EAN-13に変換
しデータは出力されます。



* UPC-A を EAN-13に変換 禁止

コード・フォーマット (2)

UPC/EAN/JAN の出力形式(2)



UPC-Eに先頭「0」を付加 許可 - UPC-Eの先頭に「0」を付加してデータが出力されます。



* UPC-Eに先頭「0」を付加 禁止



EAN-8/JAN-8 を EAN-13/JAN-13に変換する - EAN-8/JAN-8の先頭に「0」を5個付加して EAN-13/JAN-13と同等の13桁でデータが出力されます。



* EAN-8/JAN-8 を EAN-13/JAN-8に変換しない



* UPC-A ナンバー・システムを出力 許可



UPC-A ナンバー・システムを出力 禁止



* UPC-A MFR #を出力 許可



UPC-A MFR #を出力 禁止



* UPC-A アイテム・ナンバーを出力 許可



UPC-A アイテム・ナンバーを出力 禁止



* EAN-8/JAN-8チェック・ディジットを出力 許可



EAN-8/JAN-8チェック・ディジットを出力 禁止



* EAN-13/JAN-13チェック・ディジットを出力 許可



EAN-13/JAN-13チェック・ディジットを出力 禁止

コード・フォーマット (3)

Codabar (NW-7) の出力形式



1 0 7 7 1 7

NW-7のスタート/ストップ・キャラクタを出力 許可 - NW-7のスタート/ストップ・キャラクタをバーコード・データの前後に出力します。



1 0 7 7 0 7

* NW-7のスタート/ストップ・キャラクタを出力 禁止



1 0 7 7 1 6

CLSI編集 許可 - NW-7の 14 桁のデータのみ有効。このオプションはホストにデータを出力 許可前にCLSI 編集を行います。



1 0 7 7 0 6

* CLSI編集 禁止



1 0 0 4 1 0

Codabar (NW-7) Mod-16チェック・ディジット 検査 許可 - Mod16のチェック・ディジットが付加されたCodabarのみ読み取ります。



1 0 0 4 0 0

* Codabar (NW-7) Mod-16チェック・ディジット 検査 禁止



1 0 0 4 1 1

Codabar (NW-7) 「7チェック」チェック・ディジット 検査 許可 - 7チェックのチェック・ディジットが付加されたCodabarのみ読み取ります。



1 0 0 4 0 1

* Codabar (NW-7) 「7チェック」チェック・ディジット 検査 禁止



1 0 8 0 0 6

* Codabarチェック・ディジット 出力 許可



1 0 8 0 1 6

Codabarチェック・ディジット 出力 禁止

コード・フォーマット (4)

Code39 の出力形式



Code39の Mod 43チェック・ディジット 出力 許可 - この設定は、Mod 43チェック・ディジットCode 39オプションと併用します。この設定を使用するには、両オプションともに許可する必要があります。



* Code39の Mod 43チェック・ディジット 出力 禁止



Code39 ストップ/スタート・キャラクタ 出力 許可 - Code39のスタート/ストップ・キャラクタをバーコード・データの前後に出力します。



* Code 39 ストップ/スタート・キャラク 出力 禁止



PARAFの「A」(41h) プリフィックス 出力 許可



* PARAFの「A」(41h) プリフィックス 出力 禁止

Code11 の出力形式



Code11 チェック・ディジット 出力 許可 - Code 11許可と併用すると、Code 11チェック・キャラクタを出力します。



* Code11 チェック・ディジット 出力 禁止

Telepen の出力形式



Telepen ^L から E 変換 許可



* Telepenの ^L から E 変換 禁止

コード・フォーマット (5)

Plessey の出力形式



UK Plesseyチェック・ディジット 出力 許可 - スキャナはUK Plesseyチェック・ディジット・キャラクタを出力します。UK Plesseyオプションとともに使用する必要があります。



* UK Plesseyチェック・ディジット 出力 禁止



UK Plessey 特別フォーマット 許可



UK Plessey 特別フォーマット 禁止



MSI Plessey チェック・ディジット 出力 許可 - 「MSI Plessey Mod オプションを有効」の項目と併行することが必要です。



* MSI Plessey チェック・ディジット 出力 禁止

Interleaved 2 of 5 の出力形式



ITF のMod 10 チェック・ディジット 出力 許可 - ITF の Mod10 チェック・キャラクタを出力します。



* ITF のMod 10 チェック・ディジット 出力 禁止



Matrix 2 of 5 チェック・ディジット 出力 許可



* Matrix 2 of 5 チェック・ディジット 出力 禁止

RS232 (1)

インターフェイスの設定



* RS232 モード許可 - スキャナはRS-232 +/-12V シリアル出力となります。

パリティの設定



パリティなし



奇数パリティ - 奇数パリティは1 か0 を選び、データ・ビットの奇数が1 になるようにします。



* スペース・パリティ - スペース・パリティ0 を設定します。



偶数パリティ - 偶数パリティは1 か0 を選び、データ・ビットの偶数が1 になるようにします。



マーク・パリティ - マーク・パリティは常に 1を設定します。

ボーレート(1)



115200 ボーレート



57600 ボーレート



38400 ボーレート



19200 ボーレート



14400 ボーレート



* 9600 ボーレート



4800 ボーレート

RS232 (2)

ボーレート(2)



2400 ボーレート



1200 ボーレート



600 ボーレート



300 ボーレート

データ・ビット/ストップ・ビット



8 データ・ビット - それぞれのキャラクタが送信されるデータ・ビット数です。



* 7 データ・ビット



1 ストップ・ビット



* 2 ストップ・ビット

ハード・ハンドシェーク(1)



RTS/CTSハンドシェーク許可 - RTS 信号を出力し、CTS 信号を待機してデータを出力します。



* RTS/CTSハンドシェーク禁止



* キャラクタRTS/CTS -各キャラクタのRTS 信号をアクティベートしたり、非アクティブにしたりする。



メッセージRTS/CTS -最初のキャラクタを出力許可前にRTS をアクティベートし、最後のキャラクタが出力され終わるまで、アクティブにしておく。

ソフト・ハンドシェーク



ACK/NAK 許可 - データ送信後にホストからACK (06h) かNAK (15h)反応を待機します。ACK を受信した時、通信サイクルを完了し多くのデータを受け付けます。NAK を受信した時、最後のデータのみ送信しACK/NAK を再び待機します。



* ACK/NAK 禁止



ACK/NAK のBEL/CAN をサポート - BEL (07h) を受信した時、スキャナはピープ音を3回鳴動し通信ループから退出します。CAN (18H)を受信するとスキャナはピープ音なしに通信ループを退出します。



* ACK/NAK のBEL/CAN を無視 -通信ループでBEL/CAN キャラクタを無視します。



5 回のACK/NAK タイムアウト 許可 - 通信ループから退出する前に、データのNAK 送信を5回まで試みます。



* 5 回のACK/NAK タイムアウト 禁止



5回のNAK再試行を許可 - NAKを受信した場合にデータの再送信を5回まで許可します。



* 5回のNAK再試行を禁止

キーボード (1)

インターフェイスの設定



キーボード・ウェッジの初期値をロード - キーボード・ウェッジ・モードの初期値設定をロードします。PS/2キーボード・インターフェイス・ケーブルを使用する場合はこの設定を使用します。

キーボード・エミュレーション



スタンドアロン・キーボード・エミュレーション 許可 - キーボードがケーブルによる接続ではない、スタンドアロンのスタンドアロンのホスト端末に使用します。この設定は、スキャナがホストに電源オンの信号を出力しキーボードの接続をシミュレートします。



* キーボード・エミュレーション 許可 - 外部キーボードの使用時に設定します。バーコード・データが利用可能でない場合に、標準のPCキーボードによる通信を可能にするウェッジ・モードで出力します。

国別キーボードレイアウト/スキャン・コードの選択 (1)



* USAキーボード



スイス・キーボード



スペイン・キーボード



イタリア・キーボード



ドイツ・キーボード



フランス・キーボード



UKキーボード

キーボード (2)

国別キーボードレイアウト/スキャン・コードの選択 (2)



ベルギー・キーボード



日本キーボード - 日本語環境のパソコンで記号を正しく出力するにはこれを設定します。



IBM 4700 ファイナンシャル・キーボード



スウェーデン/フィンランドキーボード



スロベニア・キーボード

キーボード・タイプ



* ATキーボード - IBM PS/2および互換モデル50、55、60、80を含みます。PC/AT互換機(DOS/V)はこの設定を使用します。



PS/2キーボード - IBM PCおよび互換モデル30、70、8556を含みます。



ターミナル・キーボード・エミュレーション 許可

キーボード (3)



小文字ロック・オン - すべてのデータを小文字として出力します。



* 小文字ロック・オフ

キーボード (4)

キーボードの特別な設定 (1)



Make コードのみ出力 許可 - すべてのモデルで使用できるわけではありません。



* **Make/Break コードを出力 許可** - すべてのモデルで使用できるわけではありません。



* **FOH Break コードを出力 許可** - このスキャナはFOH Break コード・シーケンスを出力します。



FOH Break コードを出力 禁止



Alt モード 許可 - Altキーボード・シーケンスをコピーします。Altキーを押下しながらキャラクタに対応する10進数を押下するモードになります。日本語のコンピュータなどでキーボードの入力モード「全角/半角」を無視してバーコード・データをそのまま出力します。出力速度は遅くなります。



* **Alt モード 禁止** - 注意: ホストのアプリケーション・ソフトがAlt キーをホットキー (ショートカットキー) として使う場合、Alt モードは無効にしてください。



Alt モード (通常) 許可 - 前述のAlt モード 許可を設定してから有効になります。データの出力はAltキーを押下しながらキャラクタに対応する3桁の10進数を押下するモードになります。



Alt モード (拡張) 許可 - 前述のAlt モード 許可を設定してから有効になります。データの出力はAltキーを押下しながらキャラクタに対応する4桁の10進数を押下するモードになります。



オート・ディテクト・モード(AT/PS2) 許可 - Caps ロック状態を自動的に検知します。



* **オート・ディテクト・モード(AT/PS2) 禁止**

キーボード (5)

キーボードの特別な設定 (2)



Caps ロック (XT) 許可



* Caps ロック (XT) 禁止



数字をキーパッド・データとして出力 許可 - データはキーパッド (テンキー) に入力されたデータとして送信されます。



* 数字を通常のデータとして出力 許可



* 拡張キー・コードを送信の際、拡張 ASCII を使用する - PC キーボードのキー (F1、F2 等) を送信する場合、拡張 ASCII キャラクタを使います。



拡張 ASCII キャラクタを拡張 ASCII として使用する - 拡張 ASCII コードを Alt モードで出力します。



* キャラクタ KB 禁止



メッセージKB 禁止



右Altキー・シーケンス 許可



右Altキー・シーケンス 禁止

キーボード (6)

スキャン・コード間ディレイ



* スキャン・コード間ディレイ800 msec - 指定された時間はキーストロークにおける11 ビットのスキャン・コード間の時間を表しています。一部のコンピュータでは、このパラメータでスキャン・コードの送信間隔を調整する必要があります。



スキャン・コード間ディレイ7.5 msec - 指定された時間はキーストロークにおける9ビットのスキャン・コード間の時間を表しています。一部のコンピュータでは、このパラメータでスキャン・コードの送信間隔を調整する必要があります。



スキャン・コード間ディレイ15 msec - 指定された時間はキーストロークにおける11 ビットのスキャン・コード間の時間を表しています。一部のコンピュータでは、このパラメータでスキャン・コードの送信間隔を調整する必要があります。



~ ユーザー指定のスキャン・コード間ディレイmsec - マルチ・コード方式を参照。100µsecの増分ごとに値を設定します。

コントロール・セット

コントロール・セット#1を「許可」に設定するとスキャナは次の1、2のように動作します。

1	バーコード (Code128など) に含まれるASCIIの制御キャラクタ (HEX: 00~1F) を、キーボード上のファンクション・キーに変換して出力します。
2	プリフィックス・サフィックスに設定したASCIIの制御キャラクタ (HEX: 00~1F) をキーボード上のファンクション・キーに変換して出力します。 変換されるファンクション・キーについては、[表 コントロール・セット#1]を参照してください。

コントロール・セット#1



コントロール・セット#1許可



* コントロール・セット#1禁止

キーボード (7)

表-コントロール・セット#1

HEX	ASCII 制御文字	拡張キー
00H	Null	Numeric Keypad + (Plus)
01H	SOH	Num Lock
02H	STX	(Down Arrow)
03H	ETX	Numeric Keypad- (Minus)
04H	EOT	Insert
05h	ENQ	Delete
06H	ACK	System Request
07H	BEL	(Right Arrow)
08H	BS	(Left Arrow)
09H	TAB	Tab
0AH	LF	Caps Lock
0BH	VT	Shift Tab
0CH	FF	Left Alt
0DH	CR	Enter
0EH	SO	Left Control
0FH	SI	(Up Arrow)
10H	DLE	F1
11H	DC1	F2
12H	DC2	F3
13H	DC3	F4
14H	DC4	F5
15H	NAK	F6
16H	SYN	F7
17H	ETB	F8
18H	CAN	F9
19H	EM	F10
1AH	SUB	Home
1BH	ESC	Esc
1CH	FS	Page Up
1DH	GS	Page Down
1EH	RS	Print Screen
1FH	US	End

USB

インターフェイスの設定



* USBキーボード・エミュレーション・モード 許可
スキャナはHID(Human Interface Device)として設定され、
キーボード・デバイスとして認識されます。



USBシリアル・エミュレーション・モード(Uni-Directional)
許可 -
スキャナはシリアル接続デバイスとして設定されます。ドラ
イバのインストールが必要になります。



USBシリアル・エミュレーション・モードに設定後、初期設定バーコードを読み取っ
ても、USBキーボード・エミュレーション・モードには設定されません。USBキーボ
ード・エミュレーション・モードに設定するには、あらためてUSBキーボード・エミュレ
ーション・モード 許可の設定バーコードを読み取ってください。

コード・バイトの使用方法 (1)

「マルチ・コード方式」による設定項目（~を表示）は、「コード・バイト」という値を設定するための数値バーコードを読み取って値を設定する必要があります。コード・バイトの値は3桁（10進数値）で設定します。設定するコード・バイトの値はこの項目の続きにある表を参照して、該当する3桁の数値をスキャナで読み取ってください。

例：「ユーザー設定のプリフィックス#1」にアルファベット「A」を設定する

順番	読み取るメニュー	備考
1	設定開始/設定終了	ブザーが3回鳴ります
2	ユーザー設定のプリフィックス #1	ブザーが1回鳴ります
3	コード・バイト「0」	ブザーが1回鳴ります
4	コード・バイト「6」	ブザーが2回鳴ります
5	コード・バイト「5」	ブザーが3回鳴ります
6	設定開始/設定終了	ブザーが3回鳴ります

コード・バイト（数値バーコード） 0-9



0

コード・バイト0



1

コード・バイト1



2

コード・バイト2



3

コード・バイト3



4

コード・バイト4



5

コード・バイト5



6

コード・バイト6



7

コード・バイト7



8

コード・バイト8



9

コード・バイト9

コード・バイトの使用方法 (2)

コード・タイプ表

コード・バイトによるバーコードの種類の設定

バーコードの種類を設定する場合は、表の3桁の数値を設定します。

コード・バイト	コード・タイプ(バーコードの種類)
004	UPC-A
002	UPC-E
003	EAN-8
005	EAN-13
080	Code 39
081	Codabar
082	Interleaved 2 of 5
083	Code 128
084	Code 93
091	MSI Plessey
092	Code 11
093	Airline 2 of 5 (15桁)
094	Matrix 2 of 5
095	TELEPEN
096	UK Plessey
098	Standard 2 of 5
097	Airline (13桁)
099	TRI-OPTIC

コード・バイトの使用法 (3)

表-コード・バイトによるアスキーの設定値 (アスキー表) [1/5]

16進数値	10進数値/ コード・バイト値	キャラクタ	コントロール・ キーボードと同等
00	000	NUL	@
01	001	SOH	A
02	002	STX	B
03	003	ETX	C
04	004	EOT	D
05	005	ENQ	E
06	006	ACK	F
07	007	BEL	G
08	008	BS	H
09	009	HT	I
0A	010	LF	J
0B	011	VT	K
0C	012	FF	L
0D	013	CR	M
0E	014	SO	N
0F	015	SI	O
10	016	DLE	P
11	017	DC1	Q
12	018	DC2	R
13	019	DC3	S
14	020	DC4	T
15	021	NAK	U
16	022	SYN	V
17	023	ETB	W
18	024	CAN	X
19	025	EM	Y
1A	026	SUB	Z
1B	027	ESC	[
1C	028	FS	¥

コード・バイトの使用法 (4)

表-コード・バイトによるアスキーの設定値 (アスキー表) [2/5]

16進数値	10進数値/ コード・バイト値	キャラクタ	コントロール・ キーボードと同等
1D	029	GS	^
1E	030	RS	_
1F	031	US	
20	032	SP	space, blank
21	033	!	
22	034	"	
23	035	#	
24	036	\$	
25	037	%	
26	038	&	
27	039	'	apostrophe
28	040	(
29	041)	
2A	042	*	
2B	043	+	
2C	044	,	comma
2D	045	-	minus
2E	046	.	period
31	049	1	number one
32	050	2	
33	051	3	
34	052	4	
35	053	5	
36	054	6	
37	055	7	
38	056	8	
39	057	9	
3A	058	:	
3B	059	;	

コード・バイトの使用法 (5)

表-コード・バイトによるアスキーの設定値 (アスキー表) [3/5]

16進数値	10進数値/ コード・バイト値	キャラクタ	コントロール・ キーボードと同等
3C	060	<	less than
3D	061	+	
3E	062	>	greater than
3F	063	?	
40	064	@	shift P
41	065	A	
42	066	B	
43	067	C	
44	068	D	
45	069	E	
46	070	F	
47	071	G	
48	072	H	
49	073	I	letter I
4A	074	J	
4B	075	K	
4C	076	L	
4D	077	M	
4E	078	N	
4F	079	O	letter O
50	080	P	
51	081	Q	
52	082	R	
53	083	S	
54	084	T	
55	085	U	
56	086	V	
57	087	W	
58	088	X	
59	089	Y	

コード・バイトの使用法 (6)

表-コード・バイトによるアスキーの設定値 (アスキー表) [4/5]

16進数値	10進数値/ コード・バイト値	キャラクタ	コントロール・ キーボードと同等
5A	090	Z	
5B	091	[shift K
5C	092	¥	shift L
5D	093]	shift M
5E	094	^	up arrow、 shift N
5F	095	-	left arrow、 shift O,underscore
60	096	'	accent grave
61	097	a	
62	098	b	
63	099	c	
64	100	d	
65	101	e	
66	102	f	
67	103	g	
68	104	h	
69	105	i	
6A	106	j	
6B	107	k	
6C	108	l	
6D	109	m	
6E	110	n	
6F	111	o	
70	112	p	
71	113	q	
72	114	r	
73	115	s	
74	116	t	
75	117	u	
76	118	v	
77	119	w	
78	120	x	

コード・バイトの使用方法 (7)

表-コード・バイトによるアスキーの設定値 (アスキー表) [5/5]

16進数値	10進数値/ コード・バイト値	キャラクタ	コントロール・ キーボードと同等
79	121	y	
7A	122	z	
7B	123	{	
7C	124		vertical slash
7D	125	}	alt mode
7E	126	~	(alt mode)
7F	127	DEL	delete, rubout

コード・バイトの使用方法 (8)

表-コード・バイトによるファンクション・キー(拡張キー・コード)の設定値 [1/2]

プリフィックス・サフィックスにファンクション・キーを設定する場合は10進数値をコード・バイトで設定します。例：「F1」を設定する場合の値は「144」。コード・バイトの「144」(1-4-4)をスキャン。

ファンクション・キー	AT スキャン・コード	PS2スキャン・コード	3151	PREFIX/SUFFIX設定値 16進数 = 10進数
Up arrow	75H	48H	63H	80H = 128
Down arrow	72H	50H	60H	81H = 129
Right arrow	74H	4DH	6AH	82H = 130
Left arrow	6BH	4BH	61H	83H = 131
Insert	70H	52H	67H	84H = 132
Delete	71H	53H	64H	85H = 133
Home	6CH	47H	6EH	86H = 134
End	69H	4FH	00H	87H = 135
Page Up	7DH	49H	00H	88H = 136
Page Down	7AH	51H	00H	89H = 137
Right Alt	11H	38H	00H	8AH = 138
Right Ctrl	14H	1DH	39H	8BH = 139
予約項目(なし)	00H	00H	00H	8CH = 140
予約項目(なし)	00H	00H	00H	8DH = 141
Numeric Keypad Enter	5AH	5AH	79H	8EH = 142
Numeric Keypad /	4AH	35H	00H	8FH = 143
F1	05H	3BH	07H	90H = 144
F2	06H	3CH	0FH	91H = 145
F3	04H	3DH	17H	92H = 146
F4	0CH	3EH	1FH	93H = 147
F5	03H	3FH	27H	94H = 148
F6	0BH	40H	2FH	95H = 149
F7	83H	41H	37H	96H = 150
F8	0AH	42H	3FH	97H = 151
F9	01H	43H	47H	98H = 152
F10	09H	44H	4FH	99H = 153
F11	78H	57H	56H	9AH = 154
F12	07H	58H	5EH	9BH = 155
Numeric +	79H	4EH	00H	9CH = 156

コード・バイトの使用法 (9)

表-コード・バイトによるファンクション・キー(拡張キー・コード)の設定値 [2/2]

プリフィックス・サフィックスにファンクション・キーを設定する場合は10進数値をコード・バイトで設定します。例：「Tab」を設定する場合の値は「166」。コード・バイトの「166」(1-6-6)をスキャン。

ファンクション・キー	AT スキャン・コード	PS2スキャン・コード	3151	PREFIX/SUFFIX設定値 16進数 = 10進数
Numeric -	7BH	4AH	7CH	9DH = 157
Numeric *	7CH	37H	00H	9EH = 158
Caps Lock	58H	3AH	14H	9FH = 159
Num Lock	77H	45H	00H	A0H = 160
Left ALT	11H	38H	00H	A1H = 161
Left CTRL	14H	1DH	11H	A2H = 162
Left Shift	12H	2AH	12H	A3H = 163
Right Shift	59H	36H	59H	A4H = 164
Print Screen	Multiple	00H	00H	45H = 165
Tab	0DH	0FH	0DH	A6H = 166
Shift Tab	8DH	8FH	65H	A7H = 167
Enter	5AH	1CH	5AH	A8H = 168
ESC	76H	01H	08H	A9H = 169
Left ALT Make	11H	36H	00H	AAH = 170
Left ALT Break	11H	B6H	00H	ABH = 171
Left CTRL Make	14H	1DH	00H	ACH = 172
Left CTRL Break	14H	9DH	00H	ADH = 173
* LeftALT + 1 character	11H	36H	00H	AEH = 174
* LeftCTRL+1 character	14H	1DH	10H	AFH = 175
* Send			58H	C0H = 192
Clear			6FH	C1H = 193
Jump			76H	C2H = 194
Send Line			7EH	C3H = 195
Erase EOF			6DH	C4H = 196
Send - Make Only			58H	C5H = 197

MS7580固有の設定 A (1)

同一シンボル・タイムアウト

一度読んだバーコードを、再度読み取るまでにかかる時間の設定です。



同一シンボル・タイムアウト なし



1000 msec 同一シンボル・タイムアウト



* 875 msec 同一シンボル・タイムアウト



750 msec 同一シンボル・タイムアウト



625 msec 同一シンボル・タイムアウト



500 msec 同一シンボル・タイムアウト



375 msec 同一シンボル・タイムアウト



250 msec 同一シンボル・タイムアウト



同一シンボル・タイムアウト 無限

MS7580固有の設定 A (2)

PDF417 (二次元コード) の設定



* PDF 読取 許可



PDF 読取 禁止



* 可聴標識 許可



可聴標識 禁止

MicroPDFおよび合成シンボルの設定(1)



MicroPDF 読取 許可



* MicroPDF 読取 禁止



GS1 Databar (RSS) の合成シンボルを読取許可に設定するには、GS1 Databarの項目で読取許可に設定してください。

MS7580固有の設定 A (3)

MicroPDFおよび合成シンボルの設定(2)



* GS1 Databar 2Dリンク 許可 - 2D部分は読まずにGS1 Databarのみ出力します



GS1 Databar 2Dリンク 禁止



UPC/EAN 2Dリンク 許可 - 2D部分は読まずにUPC/EANのみ出力します



* UPC/EAN 2Dリンク 禁止



* Code128 2Dリンク 許可 - 2D部分は読まずにCode128のみ出力します



Code128 2Dリンク 禁止



* PDF 1D リンク 許可 - 1D部分は読まずにPDF417のみ出力します。



PDF 1D リンク 禁止



* UPDF 1Dリンク 許可 - 1D部分は読まずにMicroPDFのみ出力します。



UPDF 1Dリンク 禁止



* 標準合成出力 - 1Dおよび2Dの成分合成コンポーネントを常に個別に出力します。



個別合成出力 - 1Dおよび2Dの成分合成コンポーネントを個別に出力します。



EAN-128 エミュレーション 許可



* EAN-128 エミュレーション 禁止

MS7580固有の設定 B (1)

プレゼンテーションモードとトリガーモード

プレゼンテーションモードとはハンドフリーまたは自動読み取りのモードです。



* トリガーボタンを離した後、直ちにプレゼンテーションモードに復帰する



トリガーボタンを離した後、1秒後にプレゼンテーションモードに復帰する



トリガーボタンを離した後、5秒後にプレゼンテーションモードに復帰する

MS7580固有の設定 B (2)

照準光と照明光



* **トリガーマード 照準光 許可** - トリガーを押して読む場合は照準光が投光します。



トリガーマード 照準光 禁止



* **プレゼンテーションモード 照準光 許可** - プレゼンテーション(ハンドフリー)で読む場合は照準光が投光します。



プレゼンテーションモード 照準光 禁止



* **FirstFlash (ファースト・フラッシュ) 許可** - 照明光の明るさが抑制されます。



FirstFlash (ファースト・フラッシュ) 禁止 - 照明光の明るさが全開になります。読み取り率が向上する場合があります。



* **照準光と照明光のオートゲイン 許可** - 周囲照度や対象のコントラストによって照準光と照明光を適切な明るさに自動調整します。



照準光と照明光のオートゲイン 禁止 -

MS7580固有の設定 B (3)

キャラクタの削除

指定したキャラクタを削除します。削除するキャラクタは2つまで設定可能です。



キャラクタ1 削除 許可



キャラクタ1 削除 禁止



キャラクタ2 削除 許可



キャラクタ2 削除 禁止



キャラクタ1 の設定 - 削除するキャラクタを設定します。キャラクタはコード・バイトで設定します。設定したキャラクタの削除を有効にするには、キャラクタ1削除 許可を設定してください。



キャラクタ2 の設定 - 削除するキャラクタを設定します。キャラクタはコード・バイトで設定します。設定したキャラクタの削除を有効にするには、キャラクタ2削除 許可を設定してください。

MS7580固有の設定 B (4)

同一シンボル・タイムアウト 補足設定



トリガーモードではタイムアウトの時間を保持する



* トリガーモードではタイムアウトの時間をリセットする -
タイムアウトの時間はトリガーを押して離れた時から再カ
ウントします。

LED 補足設定

確認ランプの設定です。



* 青 通常



青 暗い



* 白 通常



白 暗い

MS7580固有の設定 B (5)

Data Matrix (1)

通常色のData Matrix 読取 許可



白黒反転のData Matrix 読取 許可



通常色と白黒反転 読取 許可



* 読取 禁止



Rectangular 読取 許可



長方形のData Matrix

* Rectangular 読取 禁止



MS7580固有の設定 B (6)

Data Matrix (2)

低コントラスト 許可



* 低コントラスト 禁止



セルが正方形ではない 許可



全てのコードについて読み取り時間が長くなる
ことがあります

* セルが正方形ではない 禁止



Shifted Tiles 許可



* Shifted Tiles 禁止



Data Matrix (3)

* 通常サイズ 許可



小さいサイズ 許可



小さいDataMatrixを読む際に、読み取り率が向上する場合があります。

極小サイズ 許可



極端に小さいDataMatrixを読む際に、読み取り率が向上する場合があります。

MS7580固有の設定 B (8)

QRコード

通常色 読取 許可



白黒反転 読取 許可



通常色と白黒反転 読取 許可



* 読取 禁止



Maxi Code

読取 許可



* 読取 禁止



MS7580固有の設定 B (9)

Aztec Code (1)

通常色 読取 許可



* 通常色 読取 禁止



白黒反転 読取 許可



* 白黒反転 読取 禁止



Aztec Code (2)

連結 許可



* 連結 禁止



* 連結 ブザー 許可



* 連結 ブザー 禁止



MS7580固有の設定 B (11)

Postal 郵便コード

日本郵便カスタマバーコード 読取 許可



* 日本郵便カスタマバーコード 読取 禁止



Codablock

Codblock A 読取 許可



* Codblock A 読取 禁止



Codblock F 読取 許可



* Codblock F 読取 禁止



PDF オプション

\ を \ として出力



* \ を \\ として出力



日本語キーボードレイアウトでは、\ (HEX:5Ch) は¥として表示されます。

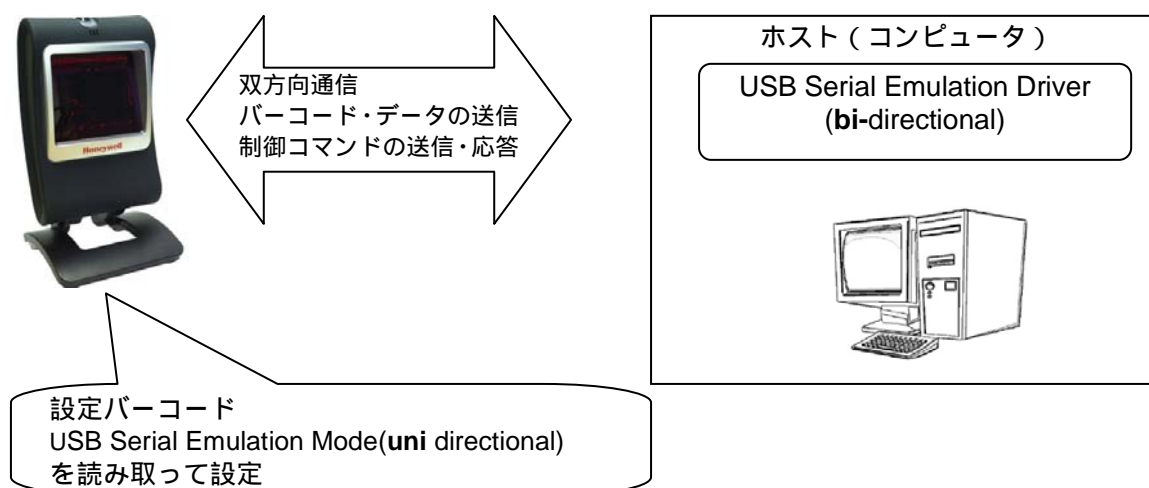
付録 (1)

USB シリアル・エミュレーション・モードの設定について

1. 概要

USB シリアル・エミュレーション・モードとはバーコードリーダーをコンピュータにUSBで接続しているが、RS-232C接続機器としてコンピュータに認識される設定です。バーコード・データはCOMポートへシリアルデータとして出力されます。

Windowsのデバイスマネージャには「通信ポート」直下の「COMポート」として表示されます。



(注) ドライバはbi-directionalを使用しますが、読み取る設定コードはuni-directionalです。

(1) 準備

専用のドライバファイル (USB Serial Emulation Driver) がコンピュータに必要になります。あらかじめドライバファイルをウェブサイトからダウンロードしてご用意してください。

(2) ドライバファイルの配布URL

http://www.a-poc.co.jp/products/p_omni/MS7580.html#dl

対象ファイルをダウンロードし、解凍してください。

2. USBのモードを確認

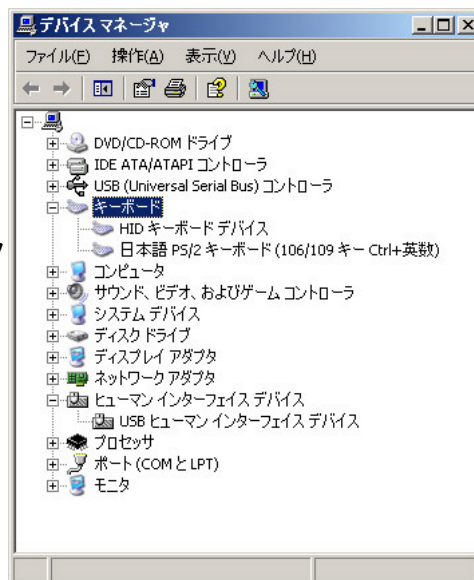
Windowsのデバイスマネージャを見ると、接続しているバーコードリーダーのUSBのモードを確認できます。

(1)USB Keyboard Emulation Mode

初期値です。どなたにでも簡単に扱える標準の動作モードです。

バーコードスキャナーは「HIDキーボード・デバイス」「USBヒューマンインターフェース」としてWindowsに認識されます。

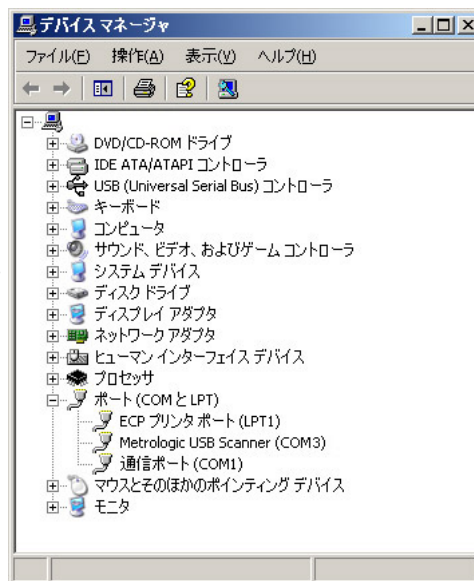
USB Keyboard Emulation Modeではキーボード・データとしてデータが出力されます。



(2)USB Serial Emulation Mode

システム開発者向けの動作モードです。

バーコードスキャナーは「(通信)ポート」に接続されたシリアル通信 (RS-232C) 機器としてWindowsに認識されます。USB Serial Emulation Modeではシリアルデータ転送 (RS-232C) でデータが出力されます。データの受信にはHEX、ASCIIの受信に対応したアプリケーション (ライブラリなど) が必要です。



3.USB Serial Emulation Mode の設定

(1)接続前の確認

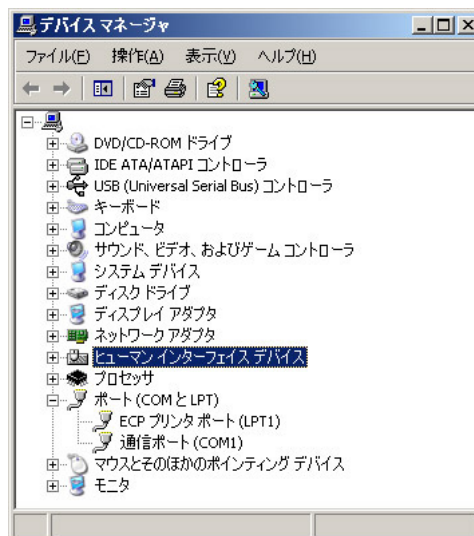
Windowsのデバイスマネージャを確認し、ポート (COM) が何個まで表示されているかを確認してください。

RS-232C (D-Sub9Pin) を1つ実装したコンピュータは、通常は「通信ポート (COM1)」が表示されています。

デバイスマネージャの起動方法

[スタート]- ([設定]) -[コントロールパネル]-
[システム]-[ハードウェア]-[デバイスマネージャ]

"USB COM Port Emulation"の接続を行うと、仮想COMポートが新しく作成されます。(COM3など)



(2)設定手順

[1]


ダウンロードしたドライバファイルをコンピュータの任意の場所に解凍してください。
解凍にはフリーソフトの解凍ユーティリティなどをご使用下さい。

[2]

USBコネクタをPCのUSBポートに接続します。
まだスキャナの設定はUSBキーボードの状態です。

[3]

設定用バーコード「USB Serial Emulation Mode(Uni directional)」をスキャンします。
スキャナがUSB COM Port Emulationに設定されます。

 ドライバファイル名はbi-directionalですが、設定バーコードはuni-directionalを読み取ります

USB Serial Emulation Mode(Uni directional)



[4]

Windowsが新しいデバイスの追加ウィザードを起動します。ウィザードに従いコンピュータを操作してください。デバイスドライバの場所を求めるメッセージが表示されたらドライバを保存した場所を指定し進めてください。



[5]

ドライバのインストールが完了したら、デバイスマネージャを開き、通信ポート (COM) の番号を確認してください。以上で完了です。

例図では仮想COMポート「COM6」にスキャナ「Honeywell USB Scanner」が接続されています。

4.使用方法

(1)

ご使用のRS-232C受信ソフトを起動します。
受信ソフトのCOMの番号をスキヤナのCOMの番号に変更します。
受信ソフトについては受信ソフトの説明書などをご覧ください。

(2)

Visual Basicで開発する場合はRS-232C通信の関数（MSComm）を使用するか、RS-232C通信のライブラリを入手してご使用ください。

(3)

簡単な動作確認の方法として、Windows標準アクセサリの「ハイパーターミナル（RS232Cモデムソフト）」を使用できます。

ハイパーターミナルの起動方法

[スタート]-[アクセサリ]-[通信]-[ハイパーターミナル]

[例]

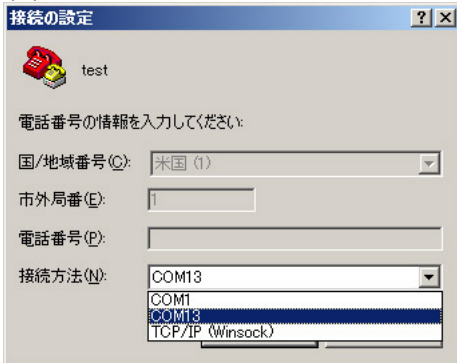
(1)ハイパーターミナル起動直後 任意の名前をつけます。



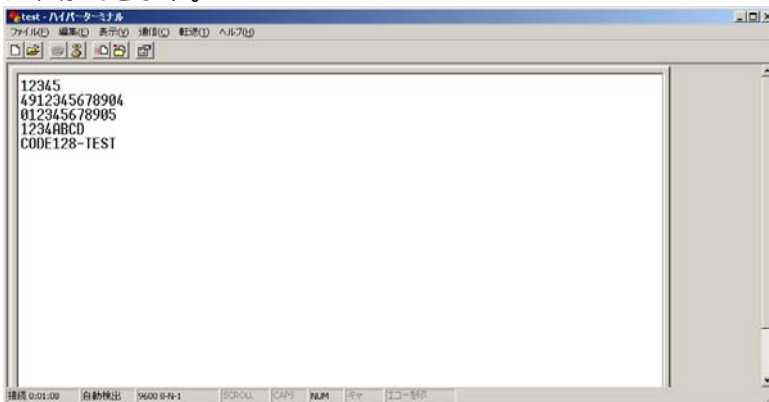
(2)「ポートの設定」パラメータは任意で設定してください。



(3) 「接続方法」をバーコードスキャナーのCOMポートに合わせてください。



(4) 設定が完了したら、モニタ画面が表示されます。バーコードを読み取ってデータのモニタリングができます。



重要 スキャナの取り外しについて

USB シリアル・エミュレーションに設定したスキャナのUSBケーブルををコンピュータから取り外す場合は、**先にコンピュータのシリアル・ポート(通信ポート)「COM」をクローズ(切断)してください。**スキャナの読み取りデータを入力するアプリケーションを実行しているときは、**COMをオープン(接続)したままで取り外さないでください。**コンピュータの仕様上、COMがオープン(接続)したままでデバイスを取り外すと、コンピュータやアプリケーションのエラーが発生することがあります。

COMをクローズする方法はコンピュータの環境(スキャナのデータを入力するアプリケーション)に依存しますのでシステムご担当者などにお問い合わせください。例えば次の手順でCOMをクローズします。

- ・ アプリケーションから COM ポートをクローズする。(アプリケーションの画面に COM クローズのボタンなどがある環境)
- ・ スキャナを使用するアプリケーションを終了して COM をクローズ(切断)してください。(アプリケーション本体またはアプリケーション中のデータ入力画面の終了とともに COM をクローズする環境)

付録 (2)

シリアル・プログラム・モード

RS-232CインターフェイスおよびUSBシリアルエミュレーション (USB Serial Emulation Mode bi-directionalドライバ使用時) では、ホストからのコマンド送信によるリーダーの設定変更ができます。

シリアル・プログラム・モードを使うには、すべてのコマンドがASCII制御文字の STX (02h) と ETX(03h)で囲まれている必要があります。コマンドの値は設定バーコードの下にある数値です。

例：初期化する

1. ホストからシリアル・ポート (COM) 経由でスキャナに<STX>999999<ETX> を送信します。
スキャナはシリアル・プログラム・モードを開始します。
読み取りは一時中止され、スキャナはACK (06h)で応答します。
2. ホストからシリアル・ポート (COM) 経由でスキャナに<STX>999998<ETX> を送信します。
スキャナのパラメータは初期値に設定されます。
スキャナはACK (06 Hex)で応答します。
3. ホストからシリアル・ポート (COM) 経由でスキャナに<STX>999999<ETX> を送信します。
スキャナは設定を保存し、シリアル・プログラム・モードを終了します。
スキャナは3回ブザー音を鳴らし、ACK (06h)をホストに送信します。

スキャナがコマンドを認識しない場合は、NAK (15h)信号で応答します。

付録 (3)

クイックセットアップ

USBインターフェイスの初期設定

初めて使用する場合に推奨する設定です。日本での使用を想定した設定です。

1 **設定開始/設定終了**



2 **初期化**



3 **USB - USBキーボード・エミュレーション・モード 許可**



この設定バーコードは省略してもかまいません。
USBシリアルエミュレーションから戻すには必要
です。

4 **国別キーボードレイアウト - 日本キーボード**



5 **標準のサフィックス - LFサフィックス 禁止**



6 **QRコード - 通常色 読取 許可**



7 **設定開始/設定終了**



付録 (4)

テスト用バーコード

UPC-A



UPC-E



JAN-13 (EAN-13)



JAN-8 (EAN-8)



Code39



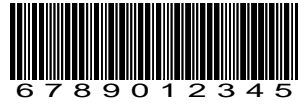
Codabar (NW-7)



Interleaved 2 of 5



Standard 2 of 5
(Code 2 of 5,
Discrete 2 of 5, Industrial 2 of 5)



Matrix 2 of 5



Code11



Code93



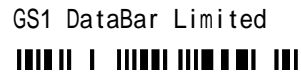
Code128



UCC/EAN-128



GS1 DataBar
(旧称 RSS、それぞれのデータは011234567890)

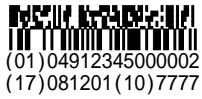


郵便コード (郵便カスタマバーコード 日本)
データ : 23033514-32-19-2F



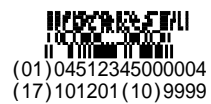
GS1 Databar Limited composite with CC-A
(GS1 RSSリミテッド 合成シンボルCC-A)

一次元 (RSS リミテッド) のデータ (01)04912345000002
二次元 (MicroPDF417) のデータ (17)081201(10)7777



GS1 Databar composite with CC-A
(GS1 RSS-14 合成シンボルCC-A)

一次元 (RSS-14スタック) のデータ (01)04512345000004
二次元 (MicroPDF417) のデータ (17)101201(10)9999



QRコード (Mode1 2)



白黒反転QRコード



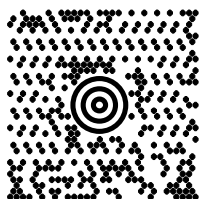
Data Matrix (ECC-200)



白黒反転Data Matrix



MaxiCode



AztecCode

